



東海財務局公式キャラクター
とうかいサウルス

経済調査レポート

海外とつながり発展する東海地域



令和8年6月11日
財務省東海財務局

～ 地域と、つながる。気づく。応える。～

東海地域では、2025年2月に中部国際空港が開港20周年を迎えたほか、2026年9～10月にアジア競技大会・アジアパラ競技大会、2027年5月にADB（アジア開発銀行）の第60回総会がそれぞれ開催される予定であり、海外とのつながりに注目が集まる。

このレポートは、東海地域を訪れるインバウンド客や、東海地域の経済活動を支える海外企業・外国人材に着目し、統計調査の分析、企業ヒアリング等を通じて、これらの動向を概観するとともに、地域活性化等に向けた課題と期待を考察するものである。

（目次）

I 東海地域におけるインバウンドの現状と地域活性化に向けた取組	3
1. 東海地域を訪れたインバウンド客の概要	
2. 東海地域における来訪目的別に見た訪問地 ～魅力あふれる観光名所～	
3. 東海地域を訪れたインバウンド客の周遊状況	
4. 中部国際空港の利用状況	
5. 中部国際空港における課題とインバウンド誘客に向けた取組	
6. 愛知県の取組 ～発酵食文化の魅力発信～	
7. 今後の地域活性化に向けて	
II 海外企業・外国人材の活力による地域企業の成長や課題解決	10
1. 地域企業の成長等に貢献する海外企業の進出	
2. 外国人材の活躍による地域の発展	

I 東海地域におけるインバウンドの現状と地域活性化に向けた取組

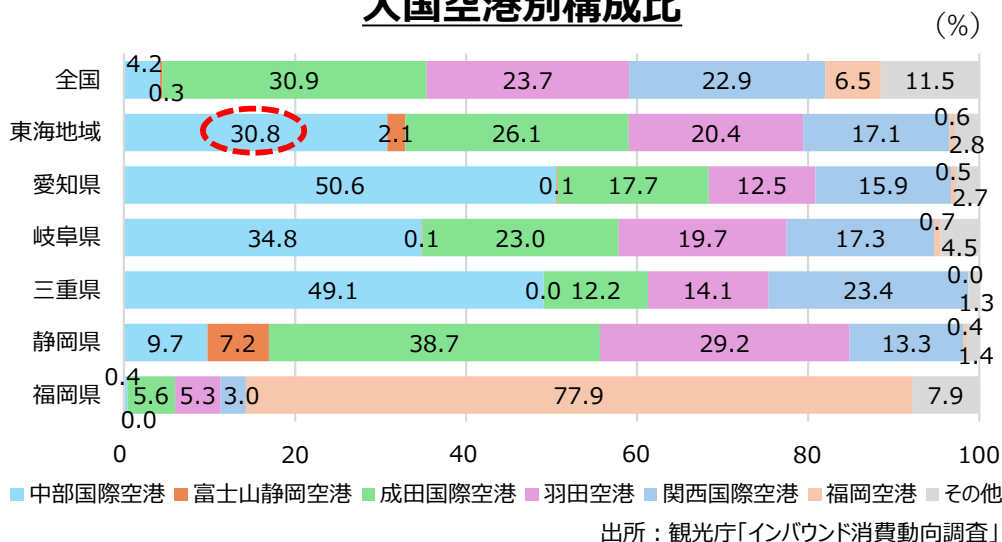
全国的に見ると、訪日インバウンド客は、コロナ禍の低迷を経て、直近では過去最高の水準に回復している。東海地域においても、多様な観光資源の活用により、インバウンド需要の取り込みによる地域の発展が期待される。

本章では、東海地域におけるインバウンド客の周遊状況等を分析するほか、中部国際空港の利用状況を踏まえた誘客の課題を整理する。また、地域主体の共創による観光資源の磨き上げや魅力発信の取組を紹介し、今後の地域活性化の方向性を示す。

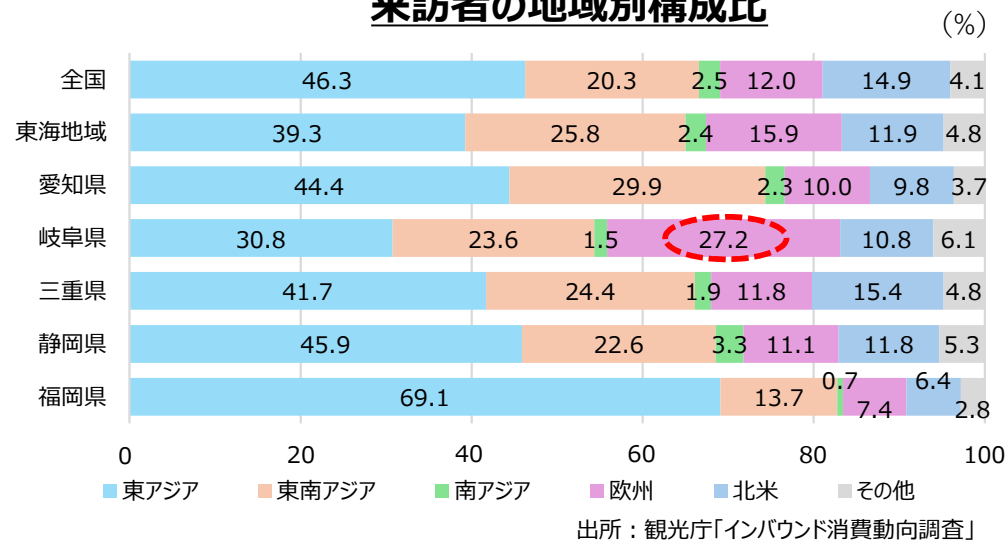
1. 東海地域を訪れたインバウンド客の概要

- **東海地域（愛知、岐阜、三重、静岡県）を訪れるインバウンド客について、入国空港別に見ると、中部国際空港が3割と最も高く、全国平均を大きく上回っており、東海地域の玄関口としての存在感がうかがえる。**しかし、国際空港がある地方都市の福岡県と比較してみると、東海地域は、関西や羽田等の国際空港に近いこともあり、地元空港への集中度は低い。
- 地域別では、いずれの県も**東アジアの割合が高い中、岐阜県では欧州の割合が相対的に高い。**
- 訪問目的別では、いずれの県も**観光・レジャー目的が7割を超える中、岐阜県は9割を占めており、インバウンド客に対する岐阜県の観光地としての魅力が特に強いことがうかがえる。**

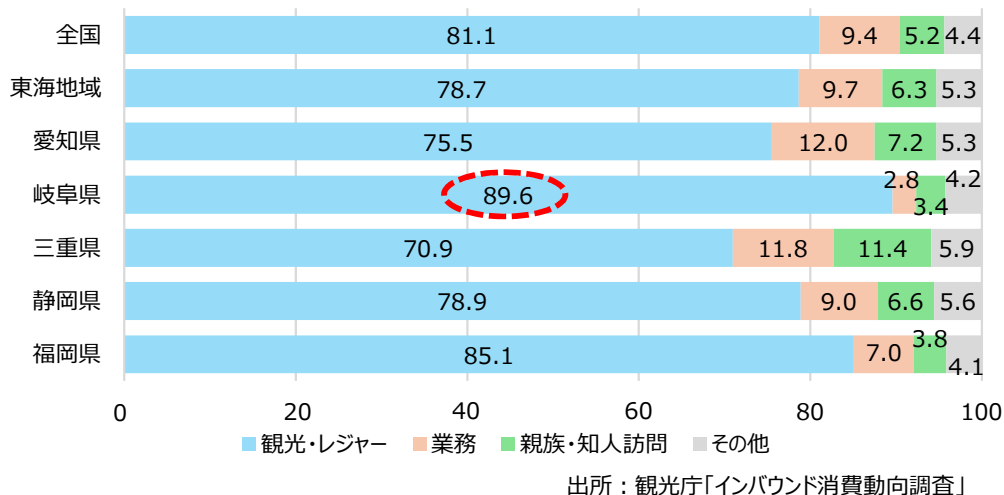
入国空港別構成比



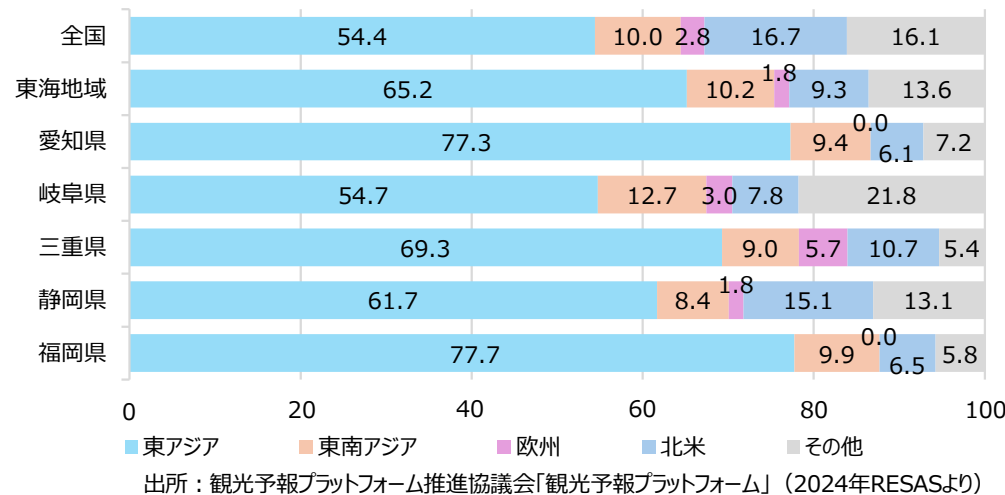
来訪者の地域別構成比



訪問目的別構成比



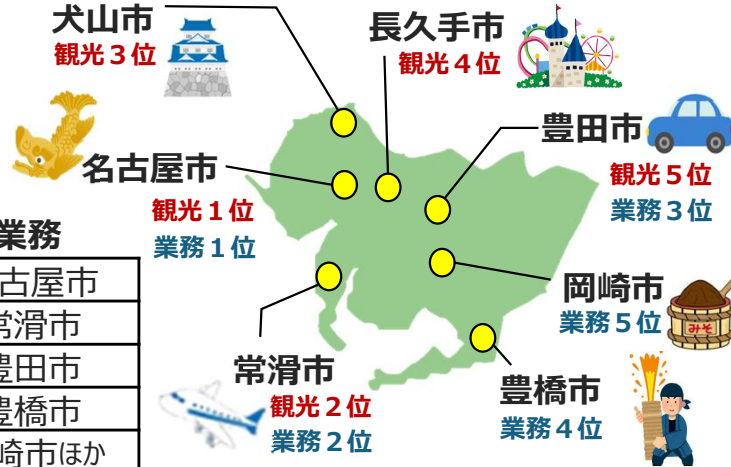
(参考) 宿泊者の地域別構成比



2. 東海地域における来訪目的別に見た訪問地 ～魅力あふれる観光名所～

- 観光目的、業務目的のいずれも、県庁所在地であり、鉄道やバスなどの交通の要衝である名古屋市が1位となったほか、中部国際空港がある常滑市が2位となった。
- 観光目的では、城下町歩きが人気の犬山市が3位となった。
- 業務目的では、自動車産業の中心である豊田市が3位となった。

愛知県



観光

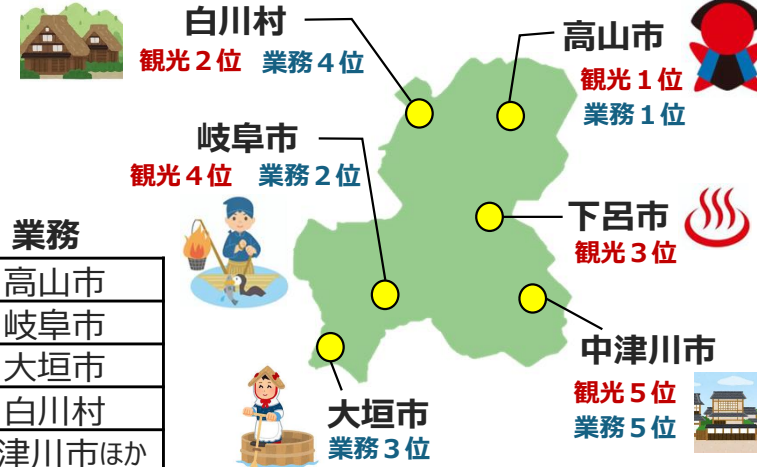
順位	訪問地
1位	名古屋市
2位	常滑市
3位	犬山市
4位	長久手市
5位	豊田市

業務

順位	訪問地
1位	名古屋市
2位	常滑市
3位	豊田市
4位	豊橋市
5位	岡崎市ほか

- 観光目的、業務目的のいずれも、古い街並や奥飛騨温泉郷のある高山市が1位となった。
- 観光目的では、世界遺産の白川郷・合掌造りで有名な白川村が2位、温泉街がある下呂市が3位となった。
- 業務目的では、県庁所在地の岐阜市が2位となった。

岐阜県



観光

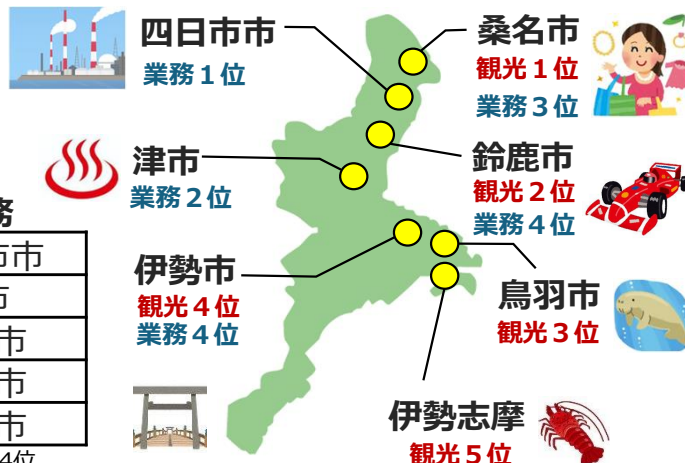
順位	訪問地
1位	高山市
2位	白川村
3位	下呂市
4位	岐阜市
5位	中津川市

業務

順位	訪問地
1位	高山市
2位	岐阜市
3位	大垣市
4位	白川村
5位	中津川市ほか

- 観光目的では、遊園地や大型商業施設のある桑名市が1位、モータースポーツ施設のある鈴鹿市が2位となった。水族館や真珠で有名な鳥羽市が3位、神宮のある伊勢市が4位と続く。
- 業務目的では、大規模な石油コンビナートが立地する四日市市が1位、県庁所在地である津市が2位となった。

三重県



観光

順位	訪問地
1位	桑名市
2位	鈴鹿市
3位	鳥羽市
4位	伊勢市
5位	伊勢志摩

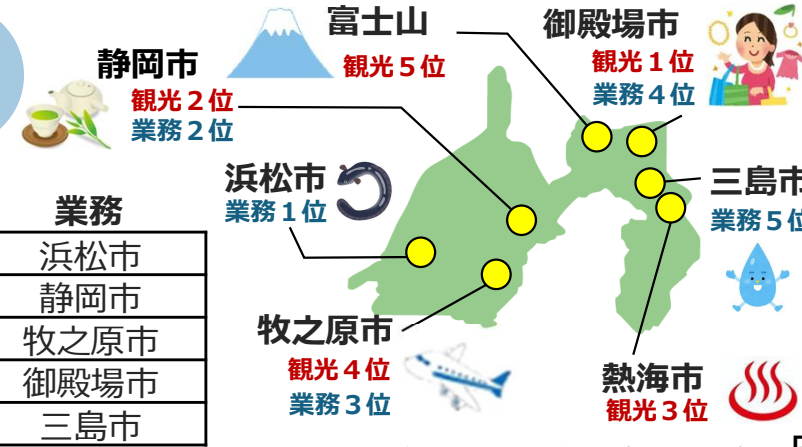
業務

順位	訪問地
1位	四日市市
2位	津市
3位	桑名市
4位	鈴鹿市
5位	伊勢市

注) 業務目的の鈴鹿市と伊勢市は同率4位

- 観光目的では、富士山の玄関口であり、大型商業施設も立地する御殿場市が1位となった。
- 業務目的では、製造業が集積する浜松市が1位となった。
- 観光目的、業務目的のいずれも県庁所在地の静岡市が2位となった。

静岡県



観光

順位	訪問地
1位	御殿場市
2位	静岡市
3位	熱海市
4位	牧之原市
5位	富士山

業務

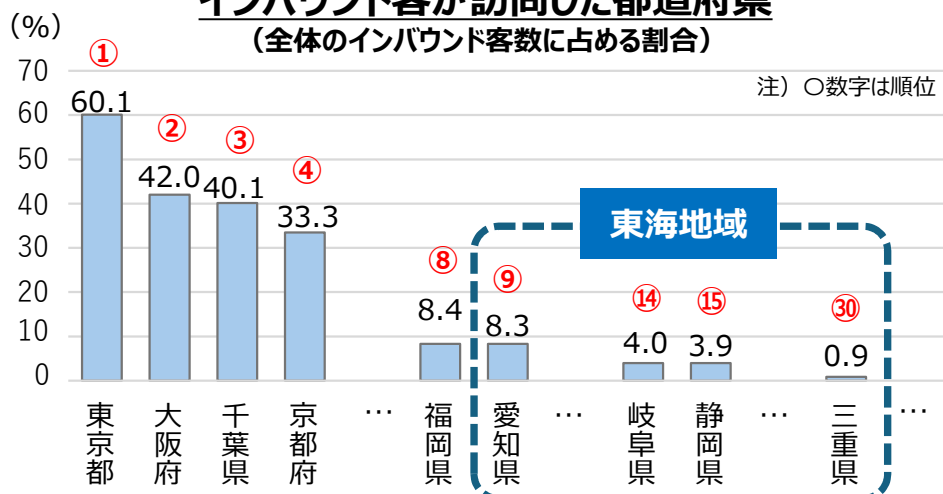
順位	訪問地
1位	浜松市
2位	静岡市
3位	牧之原市
4位	御殿場市
5位	三島市

3. 東海地域を訪れたインバウンド客の周遊状況

- 全てのインバウンド客のうち、東海地域を訪れたインバウンド客の占める割合は、東京都や大阪府などと比べ低い水準。
- いわゆる「ゴールデンルート利用客の名古屋飛ばし」の状況を見ると、約8割のゴールデンルート利用のインバウンド客が、東海地域に立ち寄ることなく通過していると思われる。
- 東海地域を訪れたインバウンド客による域内の周遊率（都道府県を跨ぐ訪問客の割合）の状況について見ると、愛知県と静岡県との間では約2割と低いものの、愛知県と岐阜県や三重県の間では5～6割の高い周遊率となった。岐阜県や三重県を訪れるインバウンド客にとって、国際空港や新幹線の駅等があり、交通の要衝である愛知県は、重要な経由地となっていることがうかがえる。
- 今後は、各県の観光資源を生かした相乗効果を創出する取組等により、東海地域の内外を問わず、周遊の広がりにつながることを期待。

インバウンド客が訪問した都道府県

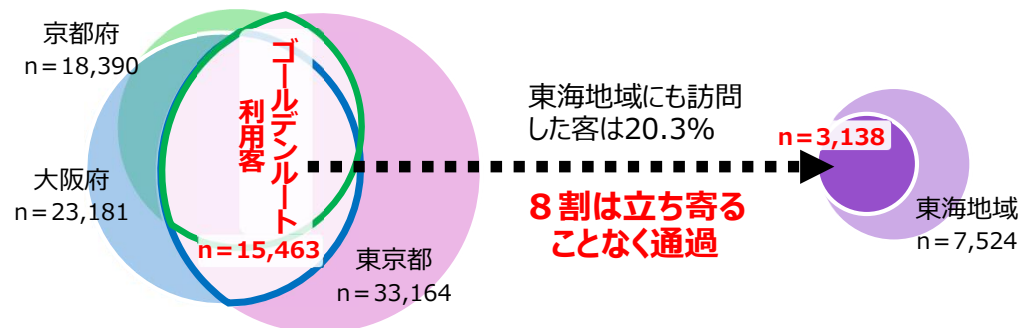
(全体のインバウンド客数に占める割合)



注) ○数字は順位
出所：観光庁「インバウンド消費動向調査」

ゴールデンルート利用客の名古屋飛ばし

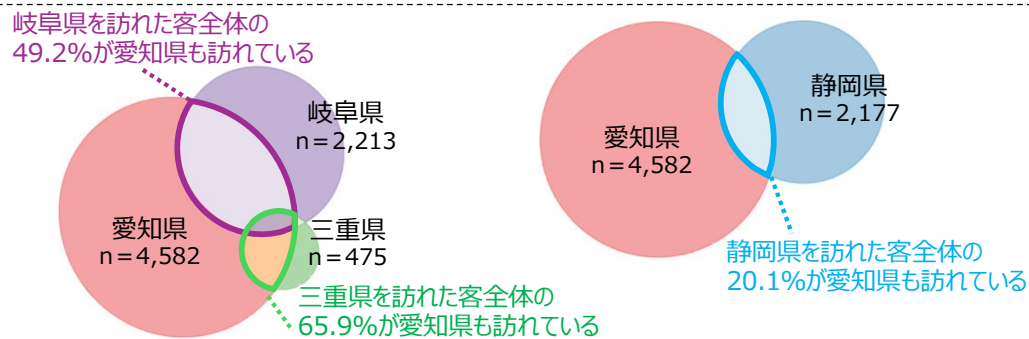
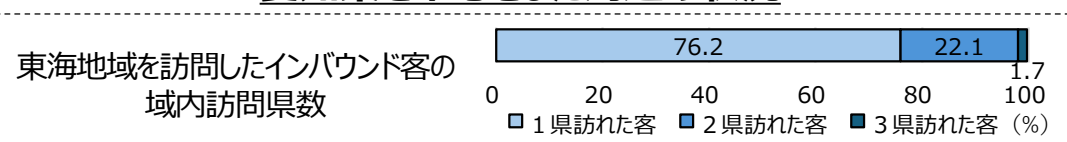
- 「ゴールデンルート」について、日本政府観光局（JNTO）では、「東京-神奈川-愛知-京都-大阪」を巡るインバウンド客向けの推奨旅程の一つとして紹介。
- ゴールデンルート利用客を「東京都を訪問し、かつ、大阪府と京都府のいずれかを訪問したインバウンド客」と定義し、東海地域への訪問状況を検証。



交通アクセスの状況



愛知県を中心とした周遊の状況



観光庁「インバウンド消費動向調査」を基に当局作成

4. 中部国際空港の利用状況

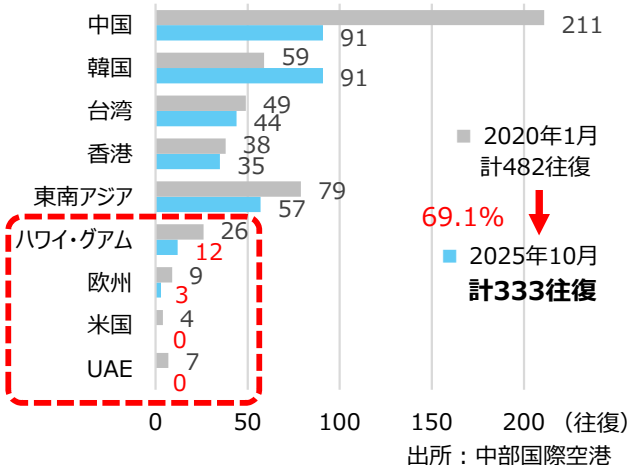
- 外国人出入国者数について、主要7空港全体では、コロナ前と比べ3割程度増加している一方、中部国際空港では、コロナ前と同水準までの回復にとどまっている。
- 中部国際空港の国際線週間便数を見ると、米国便などコロナ禍で消失したままの路線もあり、コロナ前の7割まで減少。また、日本人出入国者数は、コロナ前の6割程度までの回復にとどまっておき、利用客が他空港に流れている可能性が考えられる。
- 中部国際空港からの入国者を見ると、地域別ではアジアが95%を占め、国際線就航先のアジア集中を反映している。また、訪問目的別では業務目的が14%と、主要7空港全体より高く、背景として愛知県を中心としたものづくり産業の集積が考えられる。

外国人出入国者数（主要7空港）

	2019年比	2019年 (万人)	2025年 (万人)
福岡	175%	428	748
羽田	166%	851	1,416
成田国際	132%	1,797	2,378
関西国際	130%	1,674	2,170
新千歳	119%	345	410
那覇	114%	330	375
中部国際	100%	344	345
計	136%	5,770	7,842

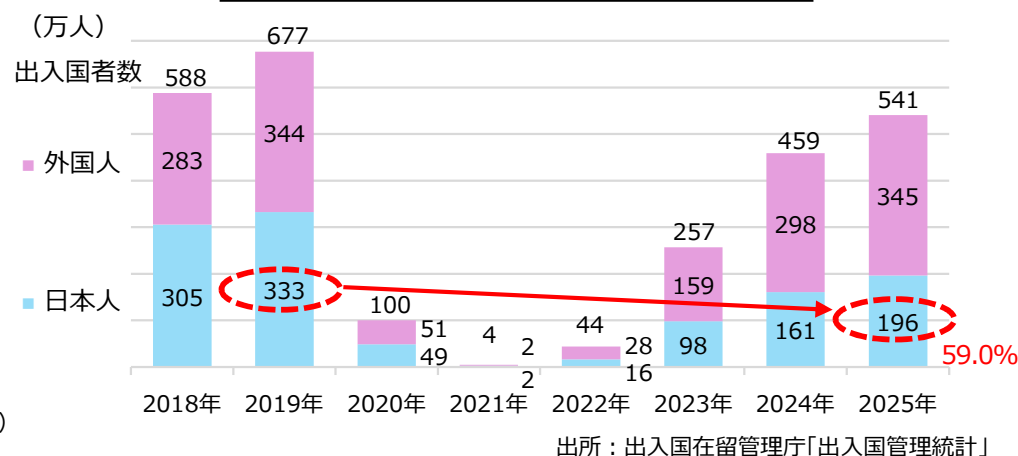
出所：出入国在留管理庁「出入国管理統計」

中部国際空港の週間便数の推移



出所：中部国際空港

中部国際空港の出入国者数の推移



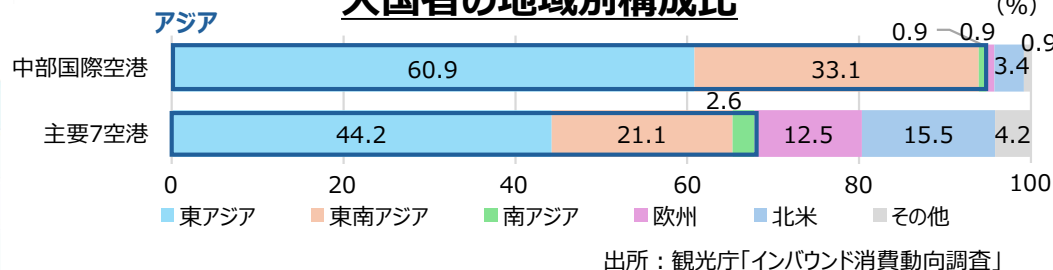
出所：出入国在留管理庁「出入国管理統計」

中部国際空港の国際線就航先と週間便数（2025年10月）

中国	韓国
上海	53往復
蘭州 (上海経由)	7往復
北京	7往復
西安	4往復
青島ほか5都市	20往復
台湾・香港	欧州
台北	ヘルシンキ 3往復
高雄	ビーチ・リゾート
台中	グアム 5往復
香港 (7往復が台北経由)	ホノルル 7往復
	東南アジア
	マニラ 14往復
	ハノイ 14往復
	ホーチミン 8往復
	バンコク (3往復が台北経由)
	シンガポール 7往復

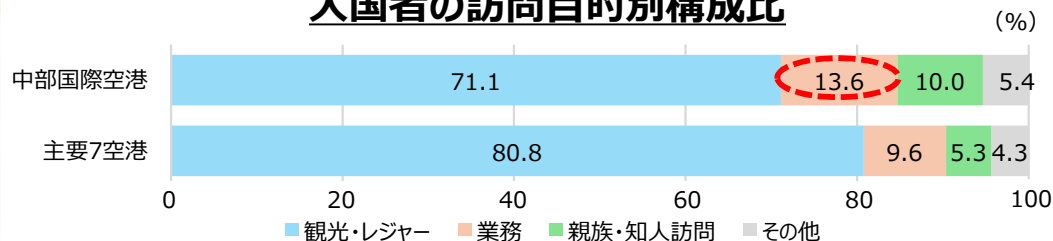
出所：中部国際空港

入国者の地域別構成比



出所：観光庁「インバウンド消費動向調査」

入国者の訪問目的別構成比

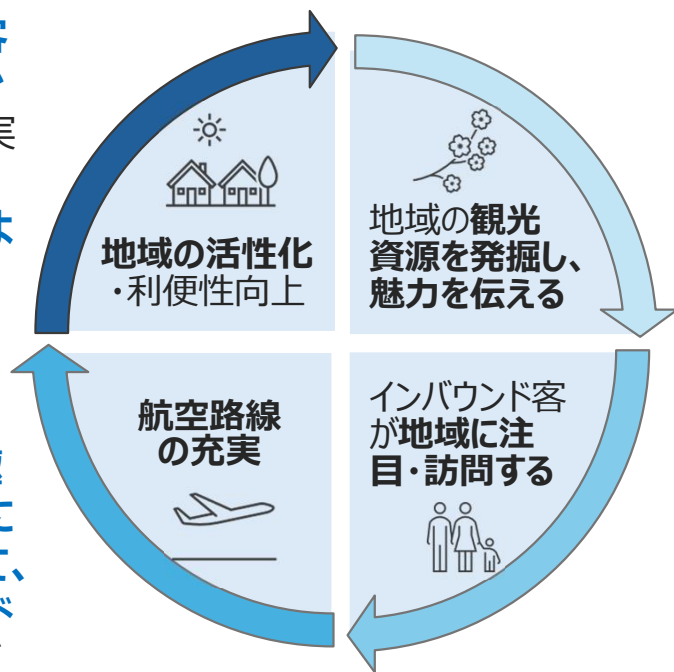


出所：観光庁「インバウンド消費動向調査」

5. 中部国際空港における課題とインバウンド誘客に向けた取組

空港利用者数の回復に向けた課題

- コロナ後の回復の原動力であるインバウンド客の訪問需要を取り込むことで、航空路線の充実を図り、この地域の人・企業からも選ばれる、より利便性の高い空港となることが課題。
- インバウンド客に選ばれる地域となるため、積極的に観光資源の発掘に関わり、地域と共創して、魅力発信とインバウンド誘客に取り組む必要がある。



「地域ブランド共創室」を新設

課題解決に向けた基本的な考え方

- ▶ **インバウンド客の目線で考える**
プロダクトアウトではなくマーケットインの視点で取り組む
- ▶ **新しく作るのではなく「いいもの」を見つけて、磨き上げる**
地元の人はまだ気づいていない観光資源を磨き上げる
- ▶ **観光を産業として成立させられるようなターゲット設定**
地域の企業を巻き込み、産業の活性化に繋げる

具体的な取組

【取組①】「名古屋インバウンドナイト」の開催

インバウンド観光に取り組む自治体や事業者が集まり、先進事例を学び意見を交わすことで、新たなつながりを広げていく交流イベントを定期的で開催。



【取組②】愛知県と連携した発酵食文化の振興

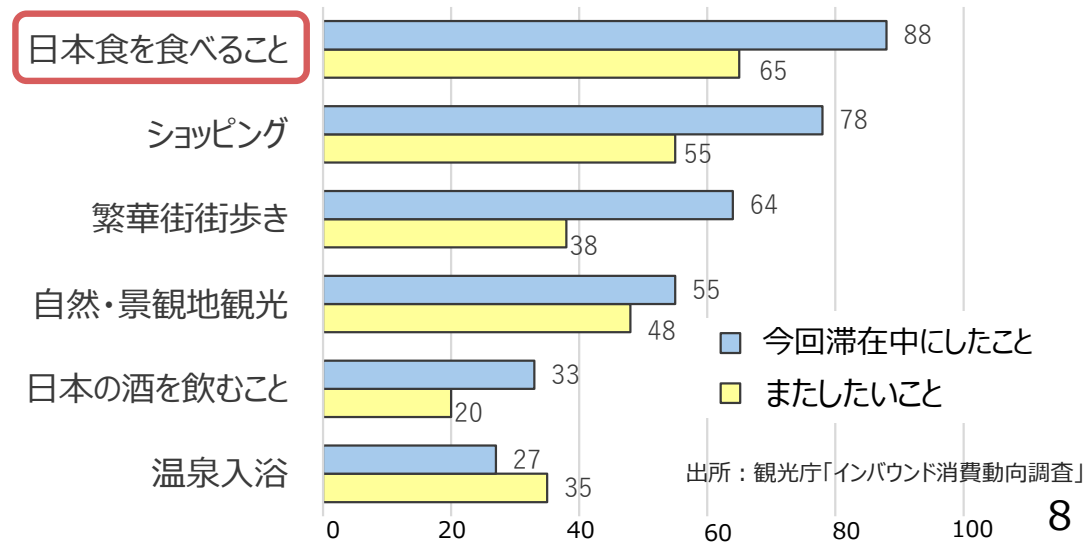
インバウンド客に関心の高い「日本食」という切り口で、愛知県が立ち上げた愛知「発酵食文化」振興協議会のメンバーとして、当地域への訪問意欲を促す取組を実施。



(取組の背景)

- 2013年にユネスコ無形文化遺産に「和食」が登録されたことで、日本食が海外に進出し、認知度が高まっている。
- 中部国際空港から入国したインバウンド客について、「今回滞在中にしたこと」として、「日本食を食べること」が最も多く、旅の目的としての重要な要素となっている。「またしたいこと」でも同様に、「日本食を食べること」が最も多く、実際に経験をした上でも、日本食への関心が引き続き高いことがうかがえる。

今回の日本滞在中にしたこと、またしたいこと (%)



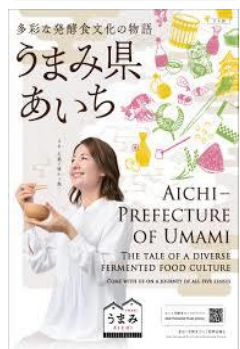
6. 愛知県の取組～発酵食文化の魅力発信～

- 日本食の魅力発信の具体的な取組として、愛知県の「発酵食文化」が挙げられる。愛知県は、歴史的にも多様な発酵食を育んできた地域であり、**老舗の蔵元が多く、独自の「うまみ」を伝承していることが強み**となっている。
- 既存の観光コンテンツ（歴史・武将、モノづくり産業）に加えて、「発酵食文化」を新たな柱として打ち立て、**多くの人に発酵食の魅力**を伝えることで、**地域振興を図る取組を推進**。

発酵食の聖地としてブランディング

<情報発信>

ブランドブック



「うまみ県あいち
BRAND BOOK」
関心度アップ

<美味しさや魅力を体験>

あいち発酵食の館 登録制度

愛知県内で発酵食を活用したメニューを提供する飲食店を対象にした登録制度。飲食店の現場から愛知の発酵食文化の魅力を広く発信し、国内外からの誘客につなげる。

蔵めぐりツアー&食事を堪能

発酵食の製造方法や歴史、サステナビリティといった価値をストーリー立てて発信。自分の目で見て、味わってもらう。

「食べる」だけでなく、仕込みなどの製造過程を体験できるツアーも需要が見込まれる。

満足度アップ

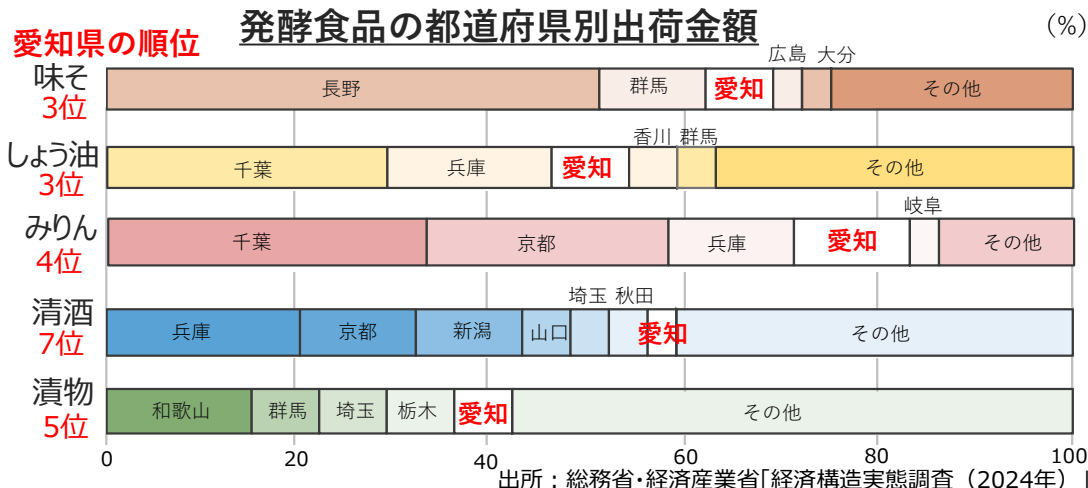
～愛知県の発酵食～

出所：愛知「発酵食文化」振興協議会

味噌	長寿を全うした徳川家康が好んで食した豆味噌。
しょうゆ	「たまり醤油」や「白醤油」など、愛知では5種類全てのしょうゆを製造。
酢	愛知・半田の赤酢は、江戸時代では握り寿司ブームに貢献した。
みりん	三河みりんは、高級品として世界の一流料理人から注目されている。
日本酒	愛知の地酒は旨口、濃いめで、この地域の「うまみが濃厚なグルメ」に合う。
漬物	守口漬などの肥沃な大地で育った多様な野菜の漬物がある。

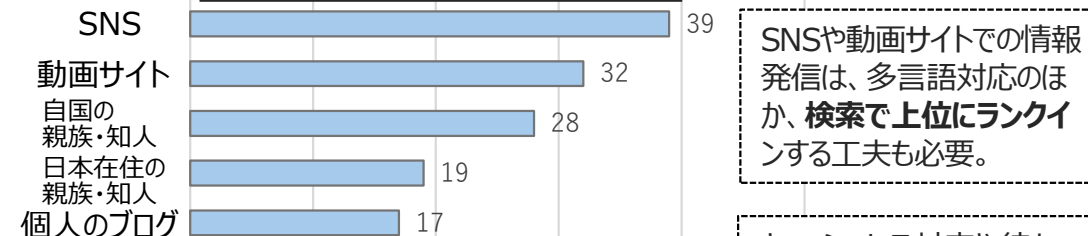
7. 今後の地域活性化に向けて

- 都道府県別の発酵食品出荷金額で見ると、愛知県は、幅広い品目で上位を占めており、有力な観光資源としての可能性を秘めていることから、「発酵食文化」を軸とした地域振興の取組に期待したい。



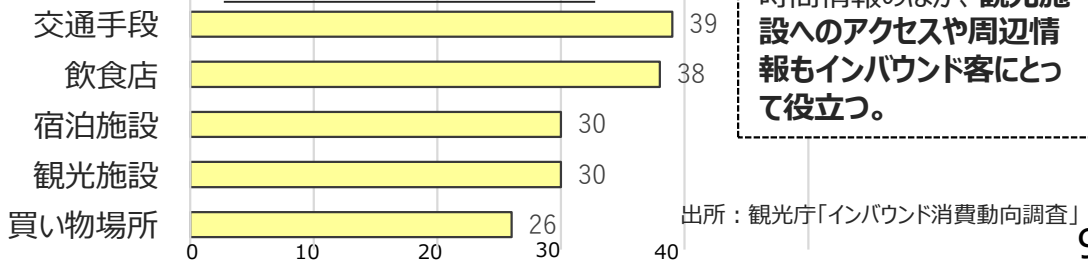
- インバウンド客のニーズを捉えて、情報発信の内容や手段を工夫することで、東海地域の魅力がより伝わり、実際に訪れる機会につながるのではないか。結果として、地場製品の消費が拡大し、東海地域の産業活性化に寄与することを期待したい。

出発前に役立つ情報ツール (%)



SNSや動画サイトでの情報発信は、多言語対応のほか、検索で上位にランクインする工夫も必要。

滞在中に役立つ情報



キャッシュレス対応や待ち時間情報のほか、観光施設へのアクセスや周辺情報もインバウンド客にとって役立つ。

Ⅱ 海外企業・外国人材の活力による地域企業の成長や課題解決

海外企業の進出は、地域の雇用創出に加え、技術交流や共同研究によるイノベーションの促進を通じて、地域企業の成長等に貢献することが期待される。また、近年では、人手不足を背景に外国人材の受入れが拡大しており、地域経済に欠かせない存在となっている。

本章では、こうした海外企業や外国人材の活力による地域企業の成長等について、東海地域や愛知県の現状・課題を整理するとともに、外国人材の育成を通じて建設業界の課題解決等に貢献する企業を紹介する。

1. 地域企業の成長等に貢献する海外企業の進出（海外企業から見た愛知県の魅力）

- 愛知県は、国際的な競争力を持つ大企業や、優れた技術を有する中小企業が集積する地域であり、**製造業の一大拠点**となっている。また、工業系大学、研究機関等も立地しており、先端技術の開発や高度な人材育成を支える役割を担っている。こうした特徴は、愛知県が製造業を中心とした海外企業から**進出先として選ばれる魅力**となっている。
- 愛知県に進出した海外企業数を見ると、中国をはじめ、韓国、台湾といった**アジアの国・地域が一定の存在感**を示している。

海外企業から見た愛知県の魅力

製造品出荷額等

第1位

出所：経済産業省
(2024年経済構造実態調査)

【全国シェア第1位】



(24業種中10業種で第1位)

愛知県に進出した海外企業数（2024年度）

(JETROの支援で愛知県に法人登記した海外企業数)

製造業 6社

非製造業 2社

進出に向けた相談件数（2025年4～10月）

(JETRO名古屋に寄せられた相談件数)

製造業 36件

非製造業 18件

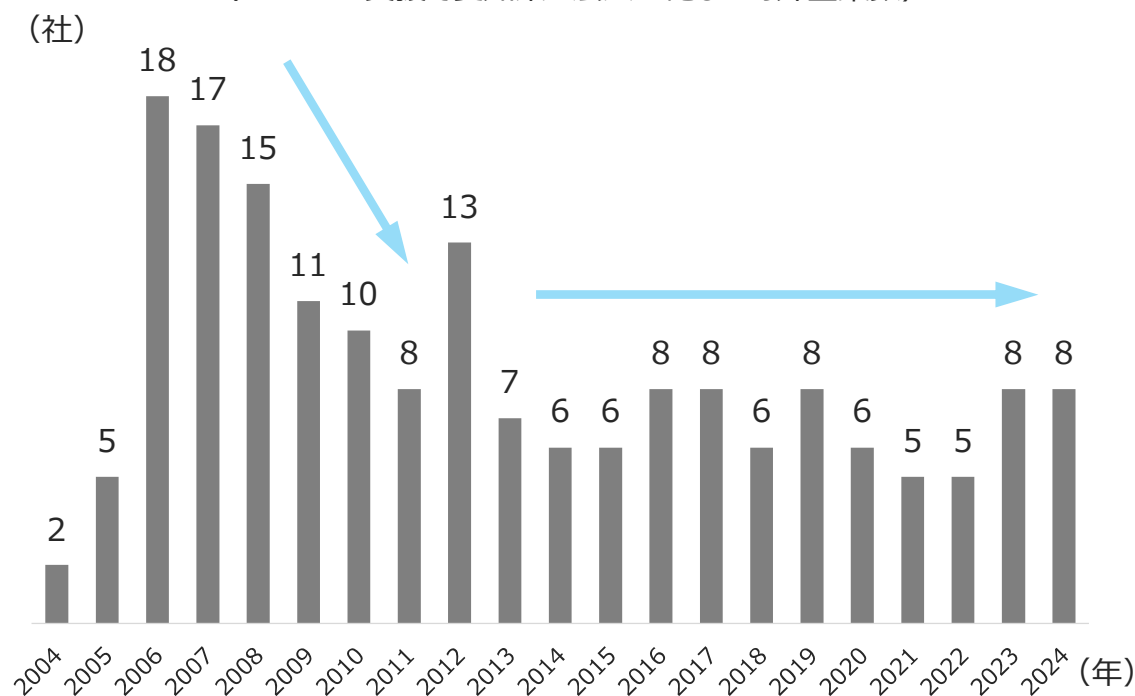
出所：日本貿易振興機構名古屋貿易情報センター

愛知県内に進出した海外企業の声

- 当社の製品が日系企業の海外現地法人で採用され、好評だったことから、当該日系企業の国内工場でも使ってもらうため、同社の本社がある愛知県に進出した。

愛知県に進出した海外企業数

(JETROの支援で愛知県に法人登記した海外企業数)



【国・地域別】

(2004～2024年：180社)



出所：日本貿易振興機構名古屋貿易情報センター

1. 地域企業の成長等に貢献する海外企業の進出（海外企業と地域のつながり強化）

- 愛知県では、JETROが中核となり、進出前からその後の支援まで**切れ目なく海外企業をサポート**している。行政でも、オープンイノベーションに向けた地域企業との接触機会の提供を通じて、海外企業の進出をサポートするとともに、**地域企業の課題解決**につなげている。
- 日本に進出した外資系企業の課題として、この地域では「人材確保が困難」とする割合が全国に比べて高い水準にある。こうした課題を踏まえると、今後は、人材確保に向けた**海外企業の知名度向上**のサポートが重要と考えられる。これにより、サプライチェーンの面でも海外企業と地域のつながりが強化され、イノベーションが広く地域に波及することが期待される。

海外企業の進出に向けたサポート体制



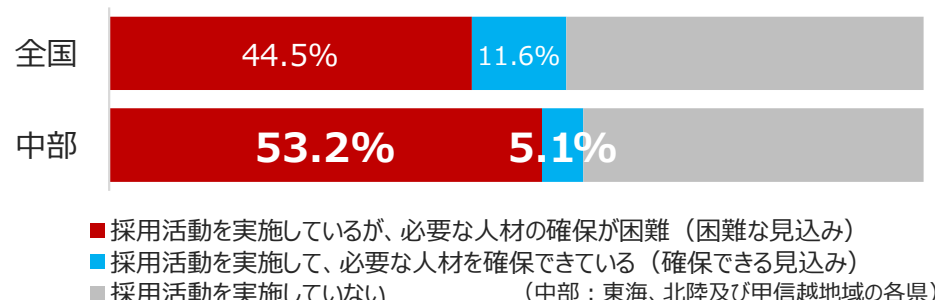
日本貿易振興機構(ジェトロ)



【対日投資・ビジネスサポートセンター名古屋】

- 進出前**
 - ・ 補助金といったインセンティブ情報等の提供
 - ・ 経験豊富で語学力のある司法書士等の紹介
- 進出中**
 - ・ 法人登記が可能なレンタルオフィスの提供
 - ・ 銀行口座の開設や不動産の取得手続の支援
- 進出後**
 - ・ ビジネスマッチングといったイベントの開催

外資系企業における人材確保の状況



海外スタートアップと県内企業との協業・連携によるオープンイノベーションを推進。海外スタートアップの誘引だけでなく、県内企業の成長も見据える。

【AICHI LANDING PAD】

県内企業のニーズを収集・分析した上で、海外スタートアップと県内企業のマッチングを支援するプログラム。

2024年度実績



（マッチングの具体例）

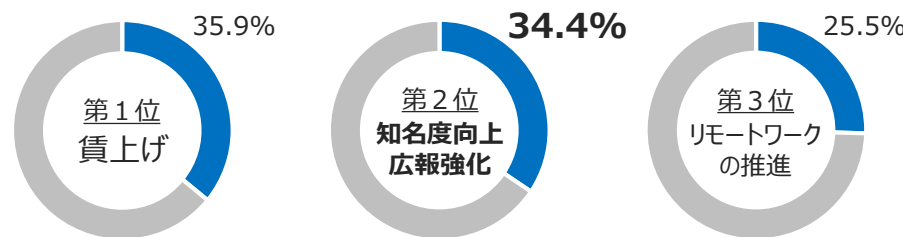
GPS信号を利用しない位置特定システムを提供する海外スタートアップが、県内のモビリティ関連スタートアップと共同プロジェクトを発足。

STATION Aiでは、約50社の海外スタートアップが会員として活動。



出所：愛知県

【人材確保のために実施している取組（予定を含む。）】



出所：日本貿易振興機構（2025年度外資系企業ビジネス実態調査）

愛知県内に進出した海外企業の声

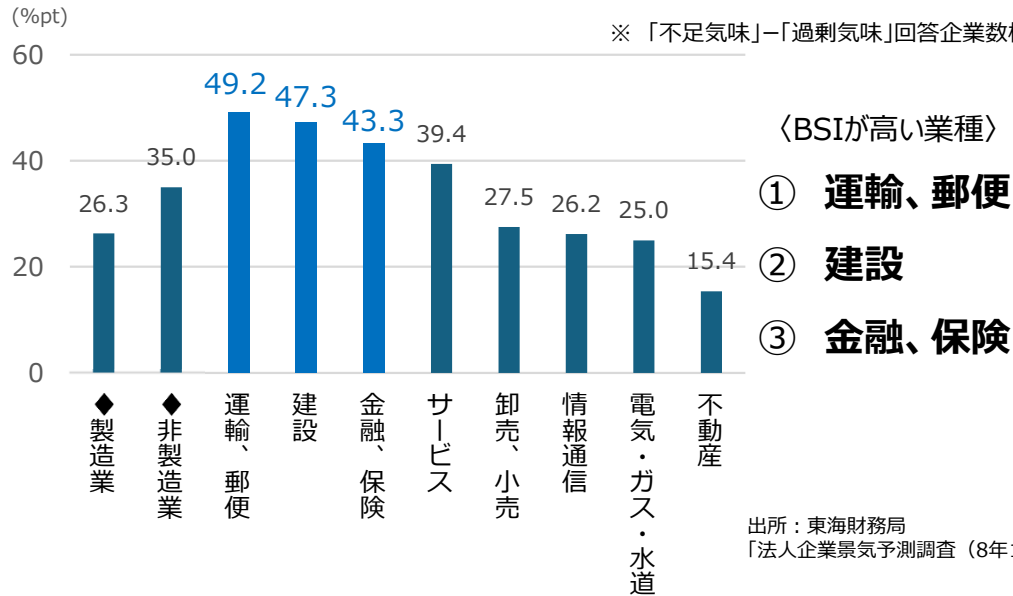
- ・ 現状は母国から部品を輸入して製品を組み立てているが、将来的には日本企業からの調達に切り替えたい。しかしながら、人手不足で展示会や交流会に参加できないことがある。
- ・ 増産に向けて、**日本人の採用を強化したいが、知名度の低さが課題**。生産管理を担う人材のほか、日本で得た知見を生かした研究開発を担う高度人材として、語学力のある優秀な地元大学生を採用したい。

2. 外国人材の活躍による地域の発展（東海地域における人手不足と外国人材の受入状況）

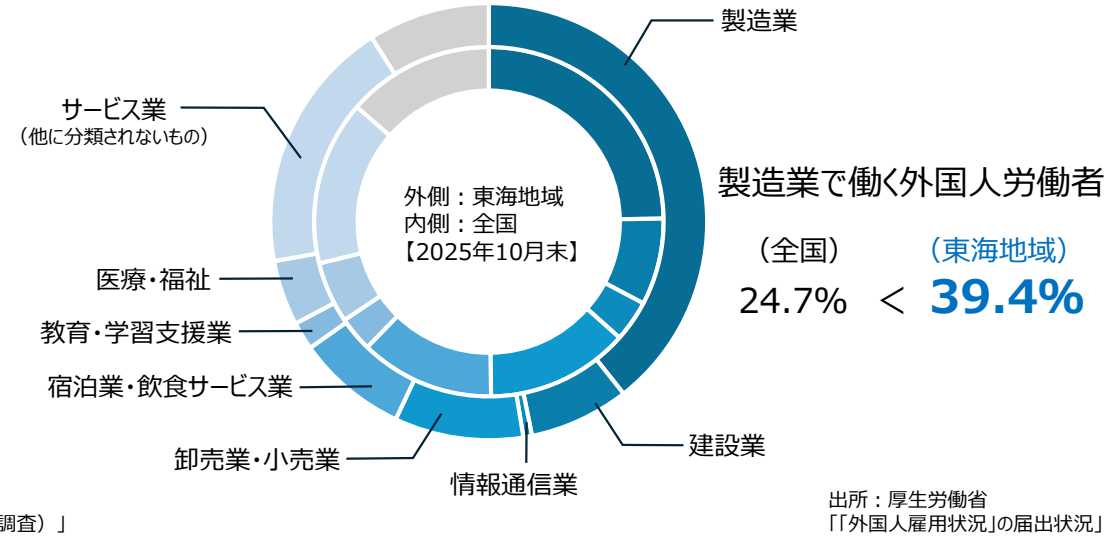
- 東海地域では、製造業・非製造業ともに**人手不足の状況**にあり、特に運輸業や建設業で不足感が高い。
- 東海地域における外国人労働者数を見ると、近年増加が続いており、業種別では全国より製造業の割合が高い。また、愛知県は外国人を雇用する事業所の割合が全国で最も高いなど、東海地域は**外国人材とのつながりが強い地域**であることがうかがえる。

東海地域の人手不足状況（従業員数判断BSI）※

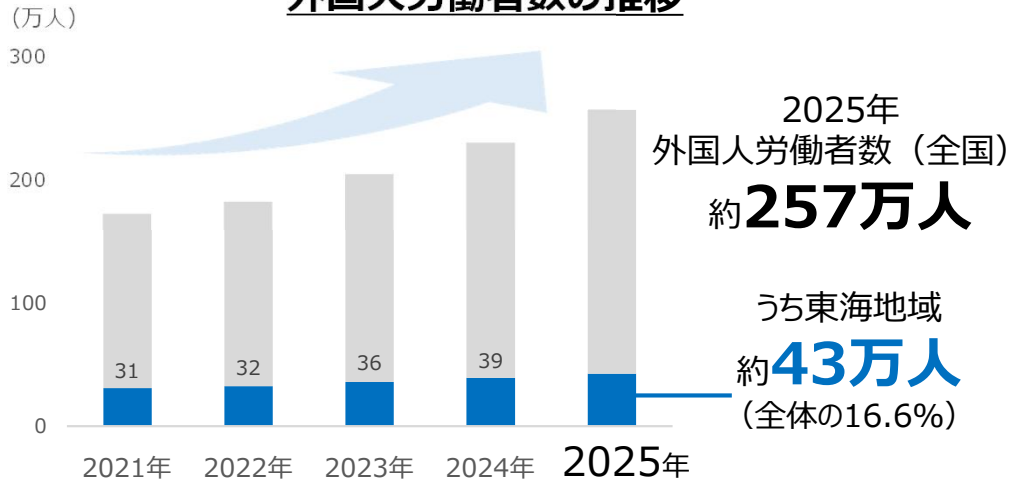
※ 「不足気味」-「過剰気味」回答企業数構成比



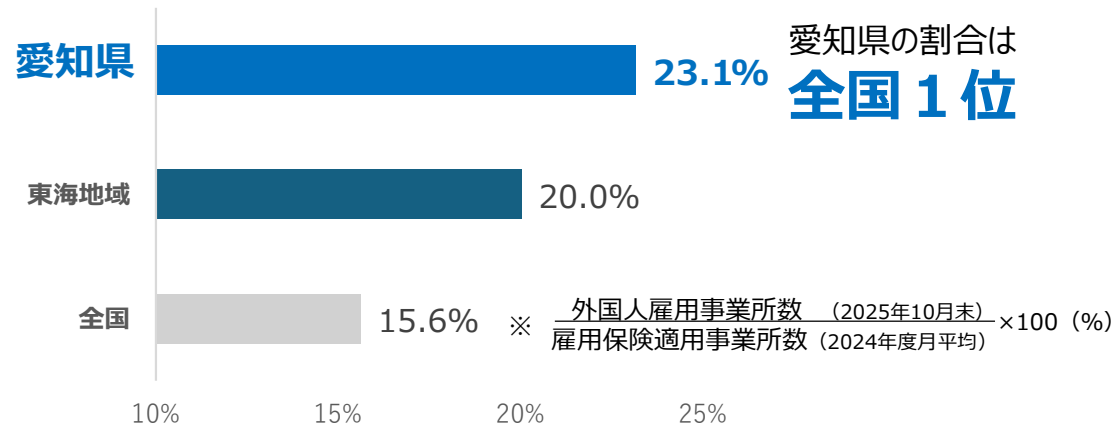
産業別外国人労働者数の割合



外国人労働者数の推移

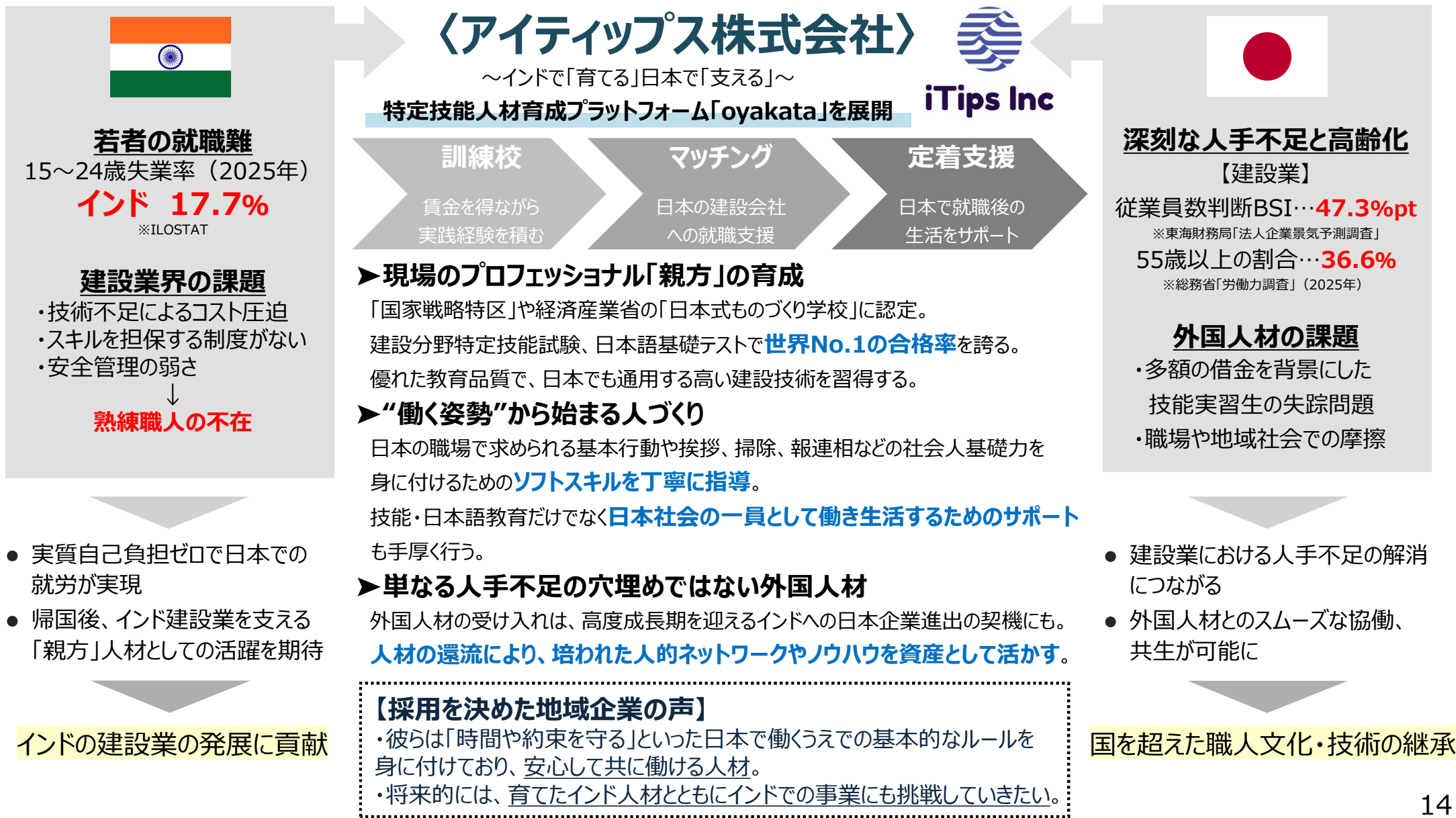


外国人雇用事業所の割合※



2. 外国人材の活躍による地域の発展（建設業界の課題解決等に貢献する企業）

- アイティップス株式会社は、建設分野で活躍できるインド人の特定技能人材の育成から、日本企業との人材マッチング、日本での定着支援までを一貫して行う名古屋発のスタートアップ企業（STATION Ai内）。
- 日本における建設現場の人手不足や、インドにおける若者の就職難といった課題を解決するだけでなく、国を超えて職人文化・技術を継承するとともに、建設業を通じて地域の発展を目指す。



【注】

I 東海地域におけるインバウンドの現状と地域活性化に向けた取組

1. 東海地域を訪れたインバウンド客の概要

- 観光庁「インバウンド消費動向調査」は、2024年4月から2025年12月までの「A1全国調査」を使用。調査サンプル数は、全国n=55,185、東海地域n=7,524、愛知県n=4,582、岐阜県n=2,213、三重県n=475、静岡県n=2,177、福岡県n=4,608。調査サンプルのうち、「東海地域」については、愛知、岐阜、三重、静岡県のいずれか（複数も含む）に訪問したと回答したものの合計。
- 観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」（2024年RESASより）の推計値は、全国n=33,230千、東海地域n=2,511千、愛知県n=870千、岐阜県n=848千、三重県n=137千、静岡県n=656千、福岡県n=1,302千。推計値については、国内の宿泊実績（店頭、国内ネット販売、海外向けサイトの販売）から抽出したサンプリングデータを基に拡大推計をして算出したもの。外国人の宿泊者について、都道府県ごとに上位10位までの国・地域の宿泊者数を集計し、「北米」等の地域別に分類して構成比を算定。

2. 東海地域における来訪目的別に見た訪問地 ～魅力あふれる観光名所～

- 観光庁「インバウンド消費動向調査」において、インバウンド客による訪問地は、市町村名または訪問地名称で複数回答する形式となっている。また、日本を訪れた主な目的を、観光目的と業務目的に分けて整理し、訪問人数の多い順に集計。
- 本項の順位付けの集計では、訪問地名称で回答されたものは、原則、該当の施設等が所在する市町村に計上。例外として、市町村を跨いで所在する訪問地名称は、特定の市町村には計上せず、訪問地名称にて集計。
(例：「熱田神宮」と回答があった場合、名古屋市が所在地となるため名古屋市に計上。また、「伊勢志摩」と回答があった場合、伊勢市、鳥羽市、志摩市等の複数市町に跨って位置するという解釈から、特定の市町には計上せず、「伊勢志摩」で集計)

3. 東海地域を訪れたインバウンド客の周遊状況

- 「ゴールデンルート利用客の名古屋飛ばし」に関し、中部圏社会経済研究所「名古屋は中部のインバウンド拠点となりうるか - マイクロデータを用いた観光拠点力の検証 -」では、『観光求心力』を分析すると、東京・大阪・京都に比べ名古屋は低い、「本レポートでは、中部圏各地へのインバウンド観光の拠点として、名古屋が東京や京都・大阪と競合し得る実力を有しているのかを検証した。観光遠心力および観光求心力という概念を整理し、実証分析に基づいて『名古屋飛ばし』とも呼ばれる現象の実態を可視化した」などの説明が見られる。

4. 中部国際空港の利用状況

- 観光庁「インバウンド消費動向調査」の調査サンプル数は、中部国際空港n=2,317、主要7空港n=52,757。

5. 中部国際空港における課題とインバウンド誘客に向けた取組

- 「今回の日本滞在中にしたこと、またしたいこと」については、観光庁「インバウンド消費動向調査」のうち、中部国際空港から入国した者の回答を対象として集計。グラフは、回答の多かった上位5位までを掲載。

7. 今後の地域活性化に向けて

- 「発酵食品の都道府県別出荷金額」については、総務省・経済産業省「経済構造実態調査（2024年）」に基づいて集計。同統計における品目は、「味そ（粉味そを含む）」、「しょう油、食用アミノ酸（粉しょう油、固形しょう油を含む）」、「みりん（本直しを含む）」、「清酒（濁酒を含む）」、「野菜漬物（果実漬物を含む）」となっている。
- 「出発前に役立った情報ツール」、「滞在中に役立った情報」については、観光庁「インバウンド消費動向調査」のうち、中部国際空港から入国した者の回答を対象として集計。グラフは、回答の多かった上位5位までを掲載。

1. このレポートに関する問合せは、次の先をお願いします。
財務省東海財務局 総務部経済調査課
電話：052-951-2632（ダイヤルイン）
2. このレポートは、次のホームページでも御覧いただくことができます。
<https://lfb.mof.go.jp/tokai/>